



友内川河口付近の葦原

リバーパル五ヶ瀬川の目の前に広がる葦原。葦の高さは人の背丈ほどもある。木名瀬は滞在中に葦をかき分けながら葦原の中を歩き進んだ体験から、その時に感じた体感や感覚を頼りに、葦原の中に道と人がすっぽり隠れるような空間をつくり、鑑賞者が実際にその中を通ることのできる作品を制作した。

葦原を通る Walk along Reed bed

木名瀬 薫 Kaoru Kinase

葦 竹 砂 麻ひも 赤い布 サイズ可変



自分の背丈ほどもある葦の中をかき分けながら進んでいくと周りが見えず、自分がどこにいて、どこに向かっているのかわからない、はっきりしない感覚になった。気づいたらどこか知らない場所に出してしまうのではないかと。でも、おそらくすぐ隣にあるであろう歩道のほうから通る人の声が聞こえる。日常とすごく近い場所のはずなのに日常とは違う場所に感じられた。